

個別指導計画



氏名・性別	チヨダ タロウ 千代田 太郎 ・ オトコ 男	生年月日	在籍学級	1年2組
		H22. 4. 15生	担任氏名	千代田 花子

指導・支援の年間目標	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを言葉で表現できるようになる。 周りに目を向け、状況を理解して行動できるようになる。 他者とのコミュニケーション(あいさつ、指示理解)ができるように。 得意なことを生かして、語彙を増やす。 	学校(園)生活支援シートより、学校での指導(遊び)・支援の目標を参考にし、年間の目標を立てます。

	目標	指導の手だて	評価
生活	1学期	・状況に応じた行動ができるようになる。	・人に会ったらあいさつするなど、状況と行動を結びつける。ドアに「しつれいします」等、その場での言葉を明記する。
	2学期	・廊下に並ぶときに自分で行動できる。	・並び始める場所をテープで示す。前の人についていくことを絵カード等です。
	3学期	学期ごとに達成可能な目標を具体的に立てます。	通常の学級や通級等での取り組みを具体的に示します。
学習(遊び)	1学期	・語彙を増やす。 ・1対1での指示が理解できるようになる。	・本よりも歌に興味を示したため、ことば遊び歌を通して言葉を覚えた。 ・在籍学級でも1番前の席でなら指示理解できるようになった。
	2学期	・語彙を増やす。 ・小集団で他の人に合わせて活動できるように。	・本よりも歌に興味を示したため、ことば遊び歌を通して言葉を覚えた。 ・在籍学級でも1番前の席でなら指示理解できるようになった。
対人関係	1学期	・自分の気持ちを言葉で表現する。	・絵カードなどを用いて今の感情を示すことができるようにしたり、気持ちを代弁したりする。
	2学期	・「嫌」の気持ちがあったときに、言葉で表現し、気持ちを落ち着けられるようになる。	・言葉での表現を認め、気持ちを落ち着けるための場所を決めておく。
できたことや実際に改善に結びついた手立てを示します。できたことが少なければ、目標を見直します。			
ここに書かれる内容は、子どもにとっての課題であって、教員の指導内容についての目標ではありません。また、必要な支援についてだけでなく、困難さを改善・克服する指導を行うといった視点で目標・手立てを設定します。			

次年度への引き継ぎ事項(成果と課題)	
成果と課題に分けて、今後の指導・支援について、読んで分かるよう書きます。具体的な手だてについては今後の環境にもよりますが、来年度の目標につながるよう書きます。	区様式として示している項目(年間の目標、生活・学習(遊び)・対人関係の学期ごとの自立活動としての指導目標・手立て・評価、年間の成果と課題)を含む形で、学校の実態に合わせて、様式を変更される場合もあります。また、子どもによっては、空欄となる項目もあります。特別支援学級や通級等を利用している場合、その指導について、別途個別の指導計画が作成される場合もあります。
年度初めは、この内容で指導していくことについて、年度の終わりはこの内容で引継ぐことについて確認をします。	